

広野町里山再生モデル事業の概要

モデル事業の目的

- Jヴィレッジスタジアムを安心して利用再開できる環境づくり
- 事業成果について原子力災害を受けた里山の再生に寄与

モデル地区概要

- モデル地区：Jヴィレッジスタジアム周辺（広野町下北迫岩沢地区）
- 区域面積：約11haうち森林約5ha（民有林（町有林））

事業の内容

除染（H29年度）

- 遊歩道（延長357m）及びその両側5mの範囲において、計3,329㎡の除草及び堆積有機物除去を実施しました。（ただし、土壌流出のおそれがある急傾斜部分を除く）



除染実施前



除染実施後

森林整備（H29年度）

- 広葉樹の更新伐（伐採率39%、2.8ha）、スギ林の間伐（間伐率30%、0.11ha）を実施しました。適切な樹木の密度となるよう、健全な生育が見込めない樹木を中心に伐採しました。伐採した樹木は一定の長さに切りそろえ、森林内に分散して配置しました。
- 表土流出防止策として丸太筋工（40.8m）を設置しました。また、伐採した樹木の一部をウッドチップにし、遊歩道沿いに敷設しました（81.5㎡）。



実施前



実施後

※更新伐：育成複層林の造成・育成、天然林の質的・構造的な改善のための適正な更新を目的とした伐採

線量測定（H29～R1年度）

- H29からR1にかけてモデル地区内の空間線量率を毎年測定しました。（メッシュ測定：144（メッシュ数）、遊歩道等の歩行サーベイ：約1,585m 等）
- 空間線量率の測定にあわせて個人被ばく線量を測定しました。

<モデル地区の概況図>



- 除染によって線量が低くなったことなどにより、Jヴィレッジスタジアムを安心して利用するための環境づくりに寄与したと考えられます。
- 除染と森林整備を一体的に実施することにより、快適な森林空間を創出し里山の再生に寄与したと考えられます。